

送配電線・変圧器の見直し

電圧トラブルに対する
SVC・SVR対応

NE
HOLDINGS

NEホールディングス株式会社

プロセス負担金推定による
系統空き枠容量の優先活用

発電機の無効電力の適正化

メンテナンス事業

経済産業省に電気保安法人登録してお
り、信頼のおけるメンテナンスを実践

電力連系コンサルティングの紹介

接続系統の連系地点見直し

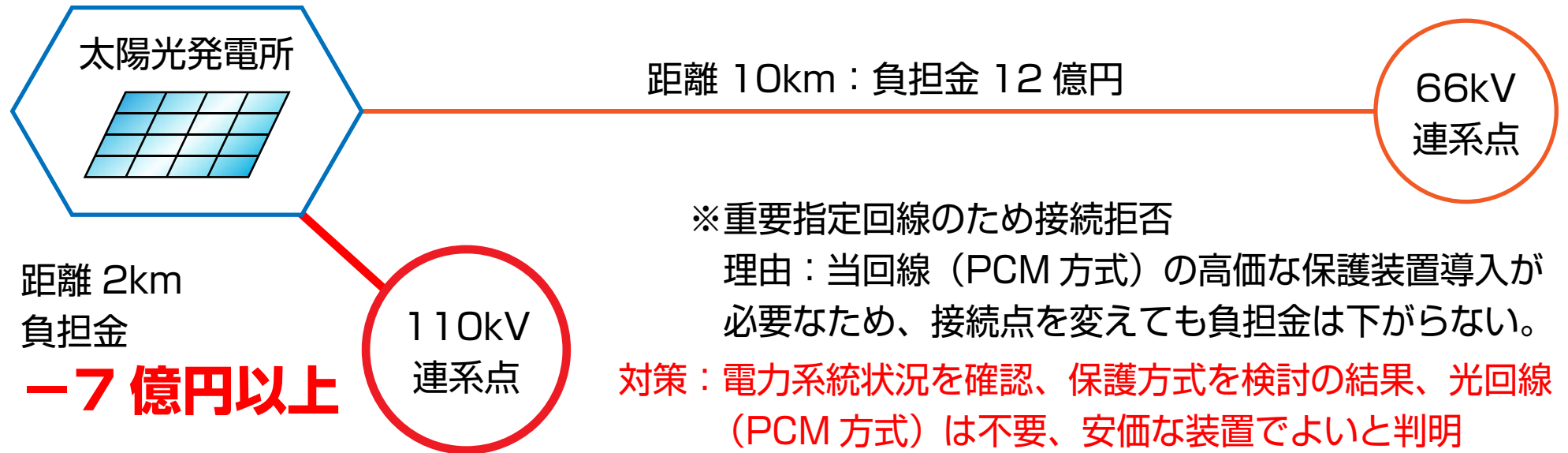
契約する適正(最適)容量や
電圧の見直し

電力連系コンサルティング
電力負担金の
費用削減!

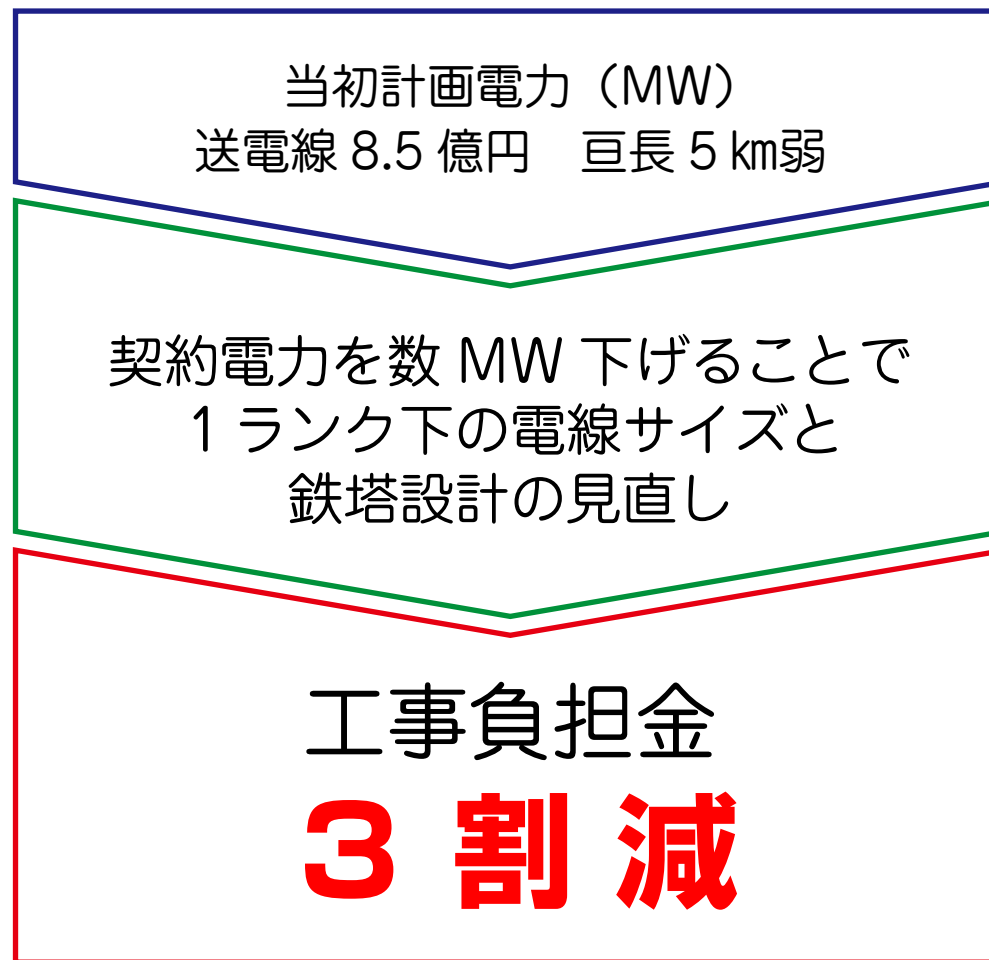
電圧対策
インピーダンス、進相・遅相量の
検討により、適正容量の設計

連系点が適正なのか判断することで負担金削減を実現（2013年）

※ 対策により、対応の不備に対して申し入れた結果、一番安価な22kV配電線連系を採用、大幅に負担金を削減（-7億円）



連系量について適正な電力容量設備を採用しているか
チェックすることで負担金を削減（2016年）



※採用する電線サイズが変わることによって3～4割の削減効果が期待される。

接続容量を下げることで、負担金を削減（2013年）

実績 ①

太陽光発電所 高圧 6kV 1,999kW

負担金：1億円

契約容量見直しを提案

1,999kW ⇒ **1,750kW** (過積載有り)

太陽光発電所

高圧 6kV 1,750kW

負担金：100万円以下

※ 当方より計画見直しなどの提案をしなければ
電力会社様からの**費用低減提案はありません。**

接続容量を下げることで、負担金を削減（2018年）

実績 ②

30MW(10MW+20MW)
2案件合計負担金 **30億円**
(他社を含むと**30億円以上**)

他社を含めたまま、負担金協議を開始

- ・ 当方 30MW (10MW+20MW は同一業者)
- ・ 負担金過大につき、他社事業は辞退

当方 30MW の内、10MW・20MW
のどちらか 1 契約を取り下げること
で
共同負担金の **30億円** が **0円** となり、
事業が成立。

※アクセス送電線は、当初より負担金が変わらないため、
自営線への変更などの提案を致しました。

25MW 太陽光発電所の連系電圧対策（2017年）

25MW 太陽光発電所

その他連系負担金

電圧対策共同負担金額 23 億円

内 SVC分担負担金 13 億円

連系負担金額 0.4 億円

SVC分担負担額 13 億円（最終提示額 17 億円）に対して、電力会社様へ容量見直しの提案により、分担負担金の削減コンサルを実施

先行事業者用SVCが設計中だったので、その設計に当方事業者様のみ負担金を先行支払いをすることで費用削減が可能になり、先行共同SVCの容量を拡大することで、SVC負担金の削減に成功

SVC分担負担金額 最終提示額 17 億円が

5億円

(1/3 以下に削減！)

電圧設備の改修費用を 1/4 以下に削減 (2016 年)

高压連系 6.6kV 1,999kW
地熱発電機設計 ⇒ 無効電力機能 (AVR) について

電圧制御ができず、発電出力
(有効電力) が半分までしか出
せない

無効電力制御が**逆転**していた

電力会社様と EPC で無効電力
機能 (AVR) の考え方が逆転
していた

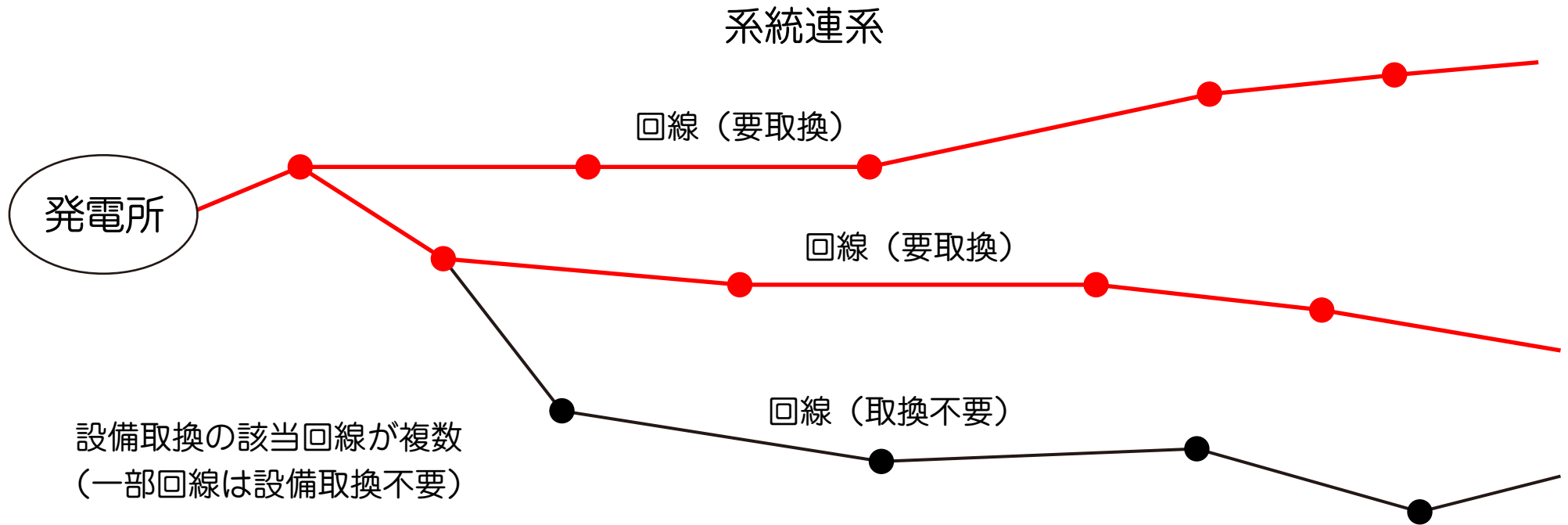
・稼働中の発電機の取り換え
費用面・工期面から不可

・大型無効電力装置の導入
配電線末端位置が接続点
のため不可

・弊社対応
多段入力式の無効電力装
置を導入、電圧変動に問
題が生じない改修

改修費用 2 億円を
1/4 以下
に削減

短絡容量対策事例



電力会社様からの通知

全面改修

負担金対象⇒15台

故障時の遮断に
必要な通過電流から、
**最小限の設備取換に
変更を実現**

負担金対象

10～11台

に削減予定
(現在協議中)

共同負担金削減事例

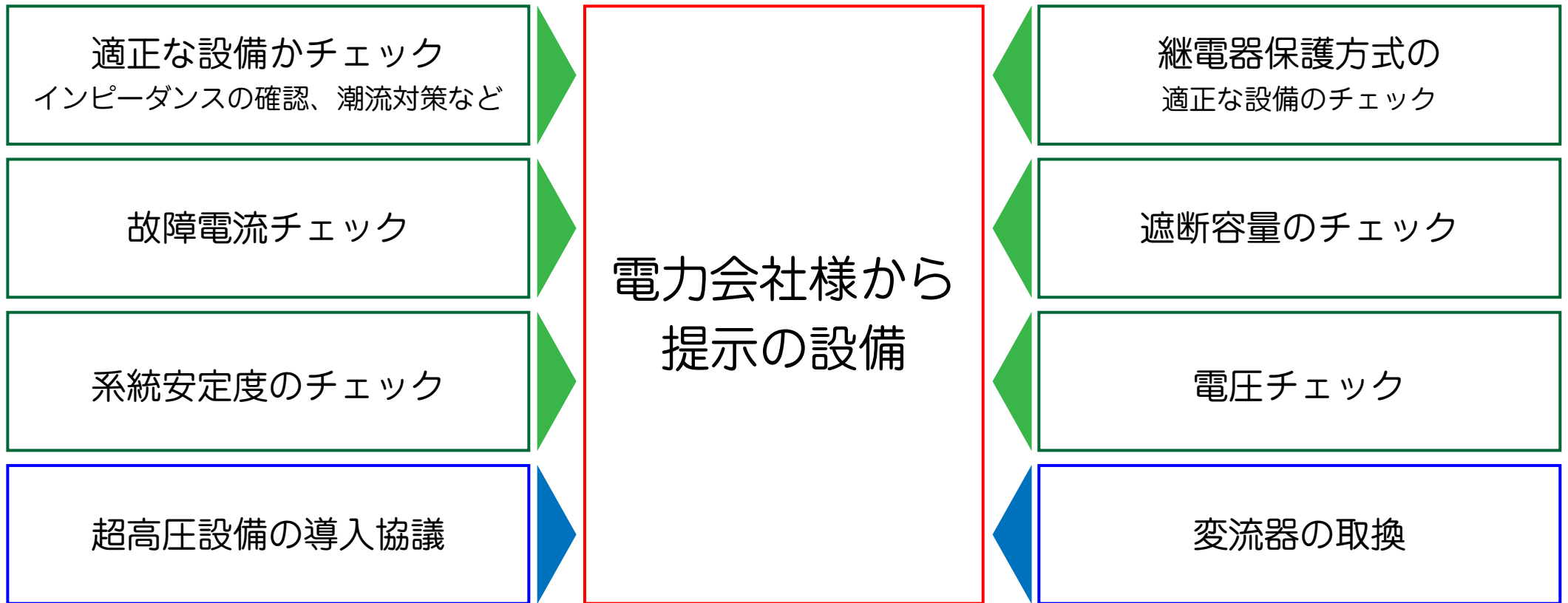
広域プロセス
(2017～2019年)

超高圧共通負担金額
他社より多く負担

下位特別高圧
系統共通負担金

11億円 ⇒ 0円
に削減

電力設備設計見直し



※ 弊社は、特殊技術を保持しており様々な電力対応を致します。